



みなさま、こんにちは！まだまだ暑い日が続いていますが体調は崩されてないでしょうか。しっかり水分補給をして休養を取って健康に過ごしましょうね。先日、当院に新しい装置が仲間入りしました！今月号では、その新しい装置「**走査型広角眼底撮影装置 CLARUS500**」についてお話ししますね！

眼科豆知識 ～広角眼底撮影装置について～



○広角眼底撮影装置とは・・・？

眼科で「眼の奥の写真を撮りますね」と言われ写真を撮ったことはありますか？眼底写真装置で撮影した断層写真により黄斑疾患や糖尿病網膜症、緑内障などを診断することができますが、通常の眼底写真装置では眼底の周辺部までは撮影できません。そんな周辺部の撮影が可能となったのが広角眼底撮影装置です。

○患者さんにとって嬉しいポイント

通常の眼底写真装置では撮影できない周辺部はどのように確認するのでしょうか。これまで周辺部を確認するためには散瞳検査と言われる瞳孔を広げる検査が必要でしたが、瞳孔を広げると眩しい状態が4～5時間続くため自動車の運転ができなかったり、手元が見えづらかったりと患者さんへの負担がありました。しかし、広角眼底撮影装置により瞳孔を広げていない状態でも糖尿病網膜症や出血の状態が確認できるようになり、さらに患者さんに写真をお見せしながら状態の説明をすることも可能になりました。眼底写真の撮影をした方は、診察室でじっくり写真をご覧になってみてくださいね。

○症状に応じた検査

瞳孔が小さい場合や、白内障や角膜の混濁が強い場合は撮影ができないことがあります。また、飛蚊症の際など散瞳をして詳細に検査をすることが必要な場合も多くございます。院長が状況や症状に応じて必要な検査を判断しますのでご安心ください。写真のことだけではなく、気になることがあれば聞いてくださいね。

院長より

暑さもすこし落ち着き、ようやく朝夕は涼しくなってきたようですね。日が暮れると、当院の植え込みからコオロギの声が聞こえるようになってきて、秋の訪れを感じます。

この夏は、気温が高すぎて蚊の活動性が落ちていたと聞きましたが、気温にかかわらず猛威を振っているコロナウイルスへの感染対策はまだまだ気が抜けそうになりません。先日は間隔をあけてお待ちいただけるように、待合室の椅子を増やしました。皆様にはご迷惑をおかけいたしますが、少しでも安全に、そして快適にご来院いただけるよう、改善を重ねて参りたいと思います。これからもよろしく願いいたします。

編集者より



新しい装置で撮影された写真はこれまでの写真よりも明るくて綺麗です。私は院長のように写真を見て病気の状態を判断することはできませんが、患者さんによって全然違う写真なので、とても興味深いな～と思いつつ診察室で写真を見ています。様々な装置があり、当たり前のことのようになっていますが、よく考えると自分の眼の奥を写真で見ることができるなんてすごいことですよ！

